

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (159)

2024年12月の作品は
「江戸案内図」②

展示テーマ

～古地図から見えてくる二つの江戸の顔～



「江戸案内図」(1枚)

江戸時代末期

作者：岡田春燈齋

(1786-1867)

出版地：京都

縦10cm × 横16cm



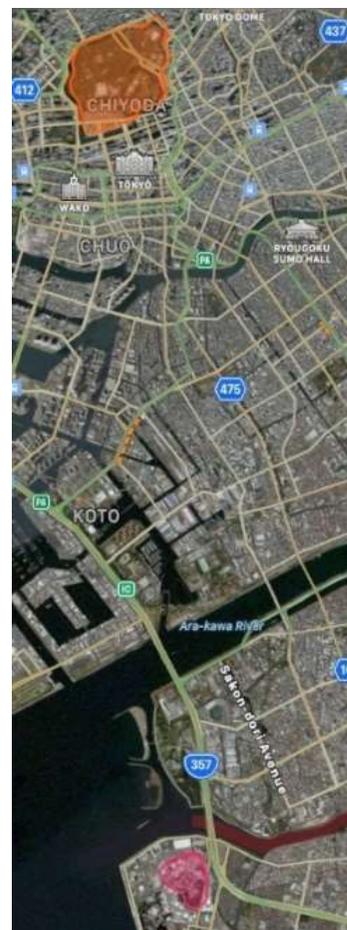
※オンライン画像は
左のQRコードより。

展示のみどころ①

～江戸城の大きさを実感する～

私が取り上げたい古地図の見どころのひとつは、「御城」の大きさである。「月替わり展覧会リーフレット(133)」にて、私は御城の説明で、「ここまで大きな」という表現を用いたのだが、その大きさとはいくらほどのものなのか具体例を挙げながら説明していきたい。以降のデータはすべて2019年時点の

ものである。



画像元：Apple Maps

まず土地の広さについて、日本で2番目に広い御城である大阪城と比較した場合、大阪城は大阪城公園を含め約106haなのに対し江戸城はその2倍を優に超える約230haであった。(皇居の他、皇居外苑含む)これは東京ディズニーランド(51ha)が4つ分収まる程である。言葉だけではイメージが付きにくいと思い、左に画像を載せた。オレンジの枠で囲まれているのが皇居+皇居外苑、ピンクの枠で囲まれているのが東京ディズニーランドである。

また外壕までの範囲を指す総構の長さや天守の高さ(天守台の石垣を含まない建物だけの高さ)も日本一であり、それぞれ約1万5700m(2位の小田原城は約9000m)、約45m(2位の大阪城は約42m)であった。

圧倒的な規模を誇る江戸城を築くには莫大な費用がかかった。総工費についての資料は現在の時点では見つからないが、約78haの松前城にかかった総工費15万両(約60億円)から単純計算すると推定180億円かかったといえる。江戸城は松前城に比べて20m程天守が高いため、実際は180億円よりかかったのではないだろうか。

展示のみどころ②

～世界的都市との意外な共通点～

この地図の見どころはもうひとつある。現在ではその形はなくなり分らなくなりましたが、古地図では御城を中心に渦巻き状に街が形成されているのが確認できる。これはパリの街並みに少し似ているように感じる。

かつてのパリは産業革命による急激な人口増加により、劣悪な居住環境、交通混雑、日照・通風の不足などの問題が起っていた。下の画像にある放射状の街路は、この問題を解決するためにとられた政策のひとつであった。



画像元：CREA (https://crea.bunshun.jp/articles/-/3875?utm_source=antenna_sp)

一方で江戸の街並みは右渦巻き状である。この城下町は家康、秀忠（1579-1632）、家光が37年に亘って形成したもので、その目的は城の防衛力を高めるためであった。江戸城は立地的に西と北からの攻撃に弱かったのだ。そこで新たに壕を設け、内壕との二重構造にすることで防衛力を高めようと考えた。元々あった川や海と壕をつなげ外壕をつくった結果、渦巻き型の都市が出来上がった。

また、この都市計画は海上の交通インフラの設備を伴っていたため、陸路や山道が狭く活発な経済活動が行えないという問題も同時に解決した。この渦巻き型都市計画は、「月替わり展覧会リーフレット（133）」で述べた「河川を利用した舟運が江戸の経済を支えた」ことや、天皇の住まいを江戸に決め

た理由のひとつ「良港がある」ということにもつながっていると考えられる。

パリとの共通点は街並みが似ているのみで、目的や効果は全く異なっていたものの、400年も前の江戸にパリの姿を投影できるのはとても面白い。また見所に渦巻き状の城下町を入れた投書の理由は、個人的に現代のものと昔のものを比較したり、江戸城の広さをディズニーランドで喩えたように全く違うカテゴリーのもの同士を比較したりすることが好きだからというものであったが、結果として「月替わり展覧会リーフレット（133）」の「天皇の住まいが東京になった理由」につながっているということをはっきりさせることができた。渦巻き状の街並みは、現在の世界的都市 TOKYO ができる歴史を語る上で欠かせないものと言えよう。この街がなければ少し違う未来になっていたのかもしれないと思うと、非常に灌漑深いものがある。

参考文献

- 株式会社オリエンタルランド（2020）「東京ディズニーランド」(<http://www.olc.co.jp/ja/tdr/profile/tdl.html>)（2020年7月22日閲覧）
- かゆみ（2018）「第15回【歴史】城を造るにはどれくらい費用や期間がかかるの？」城びと公益財団法人日本城郭協会公認 (<https://shirobito.jp/article/336>)（2020年7月24日閲覧）
- かゆみ歴史編集部（2019）「第49回【歴史】「日本一」と言われる江戸城。いったい何が「日本一」だったの？」城びと公益財団法人日本城郭協会公認 (<https://shirobito.jp/article/650>)（2020年7月22日閲覧）
- 斗鬼正一（2011）「都市というパラドックス—江戸の都市空間と人—」江戸川大学学情リポジトリ 21, p. 189 (<https://core.ac.uk/download/pdf/234043625.pdf>)（2020年7月25日閲覧）
- 羽貝正美（1996）「近代都市計画とパリ都市改造」総合都市研究 58, p. 80, p. 84 (<http://hdl.handle.net/10748/00008963>)（2020年7月24日閲覧）

あとがき ～貴重資料に触れて～

昔の地図は現在の地図に比べて情報が少なく、単色で分かりにくい上に、描き方もアバウトである。しかしながら、そのシンプルさが、かえって街の様子をよく表しているとも言える。街の造りから都市開発がされたということ、海の様子から舟運・経済が発達であったということは、シンプルな古地図だからこそ気づくことが出来たのだと感じる。古地図は当時の街の様子端的に表しており、それが魅力のひとつであると思う。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第160回展示は令和7年1月上旬からを予定しています。



令和6年12月2日発行
令和2年度 日本文化論 A 受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター